

令和3年（2021年）11月19日

保護者の皆様

吹田市立岸部第一小学校
校長 花田 郁子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

晩秋の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の学校教育活動にご理解ご協力をいただき、お礼申し上げます。

さて、6年生を対象に、4月に「令和3年度 全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。学力調査については「国語」と「算数」の二教科で、学習状況調査については質問紙で実施され、すでに個人ごとの結果はお返ししております。

この調査結果は、6年生が自分の学習到達度を確認するだけでなく、学校全体の学力・学習状況を客観的に分析し、効果的な指導方法を検証するために活用します。また、小中一貫教育が連続した取り組みとなるように、指導方法の改善を図る資料としても活用してまいります。ご家庭におかれましては、今後の家庭学習の指針として、以下の分析を参考にさせていただけたらと存じます。

なお、吹田市のホームページでも、今回実施した調査結果の概要を公表しております。併せてご覧ください。

I. 教科に関する調査の分析

1. 国語

①概要 学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕の内容に基づく問題の正答率は、全国平均値を下回る結果だった。〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づく問題では、全国平均値とほぼ同じ結果だった。

②各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと 全国平均値をやや上回っている

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはよくできていた。
- ・目的や意図に応じて、資料を使って話すことはできていた。

書くこと 全国平均値をやや下回っている

- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫することに課題が見られた。

読むこと 全国平均値を下回っている

- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事項を把握することに課題が見られた。
- ・目的を意識し、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られた。

言葉の特徴や使い方に関する事項 全国平均値を下回っている

- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことはできていた。
- ・文の中にある主語と述語との関係、修飾語と被修飾語との関係をとらえることに課題が見られた。

③今後の改善点について

- テストの問題が後ろの問題になるほど、無回答率が高くなっていった。設問の文章が長文であったことから、文章を読み進めることに時間がかかり、解答時間が足りなくなったと考えられる。決められた時間の中で意味を理解しながら長文を読むという練習が必要である。
- 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を答える問題の無回答率が、19.1%と高くなっていった。低学年から、文章を書くときには主語、述語を意識して書くということを積み上げていく必要がある。

2. 算数

①概要 学習指導要領に示されている各領域の内容（知識及び技能・思考力、判断力、表現力等）に基づく問題では、全国平均値とほぼ同じ結果だった。

②各領域における成果と課題

数と計算 全国平均値とほぼ同じ

- ・商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて、除法に表し計算することに課題が見られた。
- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準を1としたときに比較値が示された小数に当たる理由を記述することはできていた。

図形 全国平均値とほぼ同じ

- ・複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性をもとに捉え、比べることに課題が見られた。
- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を式にすることはよくできていた。

測定 全国平均値とほぼ同じ

- ・条件に合う時刻を求めることに課題が見られた。

変化と関係 全国平均値とほぼ同じ

- ・速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察することはよくできていた。
- ・速さと道のりをもとに、時間を求める式に表すことに課題があった。

データの活用 全国平均値とほぼ同じ

- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできていた。
- ・帯グラフで表わされた複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題が見られた。
- ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することに課題が見られた。

③今後の改善点について

○身の回りの事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるのではなく、データに基づいて統計的に問題を解決する必要があると考えられる。そのためには、表やグラフからどんなデータを集めるかを判断し、集めたデータを分類・整理したり、読み取ったりする練習が必要である。また、それを文字や数を使って表したり、授業の中で相手にわかりやすく発表したりする機会を多く作っていく必要がある。

3. 英語 ※質問紙調査のみ

- ・英語の勉強が好きと回答した児童は42.5%で、全国平均値を下回っていた。
- ・英語で自分の気持ちを伝え合うことができたと回答した児童は67.8%で、全国平均値をやや下回っていた。
- ・学校以外で英語を使う機会があったと回答している児童は40.4%で、全国平均値とほぼ同じだった。

4. 新型コロナウイルス感染症が児童に与えた影響について

- ・新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校になっていた期間中、勉強に不安を感じていたと回答した児童は55.4%で、全国平均値とほぼ同じだった。
- ・休校期間中、計画的に学習を続けることができたと回答した児童は53.2%で、全国平均値を下回っていた。
- ・休校期間中、規則正しい生活を送っていたと回答した児童は54.6%で、全国平均値を下回っていた。

II. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・毎日朝食をとっていると回答した児童は80.9%で、全国平均値を下回っていた。
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した児童は68.1%で、全国平均値を下回っていた。

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答している児童は53.2%で、全国平均値を下回っていた。
- ・学校へ行くのが楽しいと回答した児童は87.2%で、全国平均値を上回っていた。
- ・将来の夢や目標を持っていると回答した児童は85.1%で、全国平均値を上回っていた。
- ・人が困っているときに進んで助けていると回答した児童は80.9%で、全国平均値を上回っていた。
- ・平日、一日当たり4時間以上ゲームをしていると回答した児童は40.4%で、全国平均値を上回っていた。

【教科・学習について】

- ・国語の勉強は好きと回答した児童は46.7%で、全国平均値を下回っていた。
- ・国語の問題で、解答を文書で書く問題に最後まで解答を書こうと努力したと回答した児童は80.9%で、全国平均値とほぼ同じだった。しかし、国語の問題の無回答率は、テストの後ろの問題になるほど高くなっていった。また、解答時間が十分ではなかったと回答した児童は46.8%で、全国平均値を上回っていた。
- ・算数の勉強は好きと回答した児童は61.7%で、全国平均値をやや下回っていた。
- ・算数の問題で、言葉や数、式を使って理由や求め方を書く問題で、解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたと回答した児童は23.4%で、全国平均値をやや上回っていた。
- ・平日、家では全く読書をしないと回答した児童は27.7%で、全国平均値を上回っていた。
- ・学校が休みの日、家で勉強する時間は1時間以内と回答した児童は40.4%で、全くしないと回答した児童は25.5%で、どちらも全国平均値を大きく上回っていた。

III. 今後の取り組み

今回の学力・学習状況調査の結果から、確かな学力を育成するためには、新学習指導要領に示されるような授業改善を進めていくことが大切であると考えられる。本校では、これから主体的で対話的な学習を充実させていくとともに、他者との協働の中で多様な価値観を尊重し、自分の考えを深める「協働的な学び」の実践に取り組んでいく。

また、ウイズコロナ、ポストコロナの時代に、子どもたちが自立し自信をもって生きていくための自己管理能力を身に付けられるよう、学校と家庭が連携して、規則正しい生活リズムを整えたり、自分で計画的にICTを利用したりする取り組みを行っていく。